

② 平成 24 年度明星大学入学前教育実施報告

学部長250613-8-1

平成 25 年 6 月 1 日

明星大学

学長 小川哲生 殿

全学入学前教育担当

副学長 佐久間美智子

平成 25 年 6 月 13 日

明星大学

学長 小川哲生 殿

全学入学前教育担当

副学長 佐久間美智子

平成 24 年度 明星大学入学前教育実施結果について（報告）

平成 24 年度第 4 回学部長会に提出いたしました「平成 24 年度の入学前教育実施の基本方針」（学部長 2407012-3）に基づき、平成 24 年度の入学前教育を実施・終了いたしましたので、下記に報告いたします。

添付資料

報告書：平成 24 年度 明星大学入学前教育実施結果について【報告】

平成 24 年度 明星大学入学前教育実施結果について（報告）

1. 全体の総括について

大学全体として入学前教育に取り組み始めてから丸 5 年が経過した。平成 22 年度の入学前教育より、「スタートアップ講座」を取り入れている。特に平成 24 年度は、入学前教育の意義を入学予定者・保護者ともに理解してもらうとともに、多くの在学生・勤労奨学生の協力を得ながら、大学をより身近に感じてもらう内容の構成として実施した。

平成 23 年度より学科との接続を考えたプログラム「学科等説明会」は、平成 24 年度から「学科交流会」という名称に変更し全学科のご協力を得て「学科交流会」を実施することが出来た。教員や上級生となる在学生との関わりは、入学予定者の高校生にとって、大学で学ぶための意識や動機づけとなっている。「在学生の声」に多くの入学予定者が熱心に耳を傾けていた結果、8 割の入学予定者が「学科交流会が良かった」という反応があった。入学前教育の中で積極的に「在学生」にかかわってもらうことが入学予定者および保護者にとってよい結果となっている。

以下は、各プログラムの実施報告である。

① スタートアップ講座について

本学の入学前教育の通信講座は業者委託による「通信添削」である。平成 21 年度からは全学で実施している。平成 22 年度より「スタートアップ講座」を加え、入学予定者への意識づけを行っているが、平成 24 年度は、「大学生活をイメージさせること」を意識してプログラムが構成されている。

入学予定者向けの主な内容は（1）大学の入学前教育の意義や内容を入学予定者に直接に伝える、（2）大学生活をイメージさせること、（3）短い時間でも同じ学科の仲間との関わりをもたせること、（4）通信教育の意義や進め方について添削をする教員からの直接の説明と努力喚起をとした。3 日間を通じて 880 名（86.4%）の入学予定者がスタートアップ講座に参加した。なお、欠席した入学予定者には、後日スタートアップ講座資料及び通信添削を自宅へ郵送し課題に取り組むように促している。

尚、スタートアップ講座の最後に、「学科交流会」として全学科の参加を得ることができ教員や在学生の協力により良い成果をあげることができた。

また、スタートアップ講座における保護者向けの内容は、入学前教育の目的、入学までの家庭での指導等の説明である。参加された保護者は、「在学生」の協力を、これから成長していく子供の姿に重ね合わせており、好意的なご意見を多く寄せていただいた。入学前教育プログラム全体の保護者の反応は肯定的な意見が多く、その中でも、「通信添削（38.9%）」、「スタートアップ講座（25.7%）」が必要と回答している。3 日間の実施における保護者の参加者は、754 組 1167 名であった。

② プレテスト・通信添削について

通信添削の課題は、各教科に 3 段階のレベル設定をしているため、「スタートアップ講座」の際にプレテストを実施し、その結果を基に、教材・課題を入学予定者宛に送付している。

入学予定者の取り組み状況としては、平成 23 年度より白紙答案が減り、更には返送率が 98% となり、平成 23 年度の 95.3% より 2.7 ポイントを上昇している。（図 1）

現時点では、短期的な期間において学力アップはできずとも、学習習慣を維持させ、期限を守る、理解できないものは調べる、聞く、という自律的な学びや大学生としての意識をもつ一助となり、入学後の学びに好影響があることが期待できる。

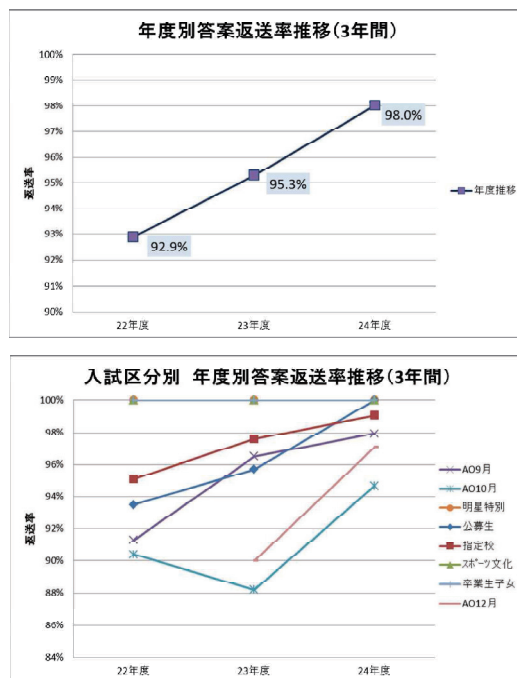


図 1 年度別、入試区分別返送率推移（平成 22～24 年度）

③通信添削 各教科の講評について

全学部学科の科目別講評については、課題作成及び通信添削をした講師（業務委託業者：（株）四谷ゼミナール）から報告書が提出されており、詳細な資料（資料 1～4）については、学部支援室にて閲覧していただきたい。

閲覧資料：通信添削答案返送率推移（資料 1）、科目別平均得点（資料 2）、スタートアップ講座出欠と課題提出の相関（資料 3）、科目講評（資料 4）

④フォローアップ講習について

通信添削の課題提出状況及び取組状況等について学習状況を確認し、フォローアップ対象者を抽出して講習への参加を促した。対象者 137 名を呼び出し、平成 23 年度の約 3 倍となる 84 名（平成 23 年度 29 名）の入学予定者が参加をした。

平成 24 年度より、保護者の目にとまるように案内方法を封書から往復はがきに変更し、参加を確認する方式を試みた結果、平成 23 年度よりも参加者が増えた。参加された入学予定者は、なぜ呼び出されたかを理解して参加している。講習の参加後のコメントには「これからは課題提出日を守って提出します。今日は参加してよかったです」等の記載が多くみられた。

⑤スクーリングについて

2、3 月は、リメディアル教室を利用したスクーリングを実施している。述べ人数であるが 355 名の入学予定者が利用し学習している。

⑥学科との連携効果について

入学予定者は、大学プログラム、学科独自のプログラムも同じ入学前教育として捉えている。平成 24 年度は、全学科の協力により、大学プログラムと学科独自のプログラムがスムーズに流れたことは大きな成果であった。25 年度も各学科との連携、調整を行い、大きな成果を挙げていきたい。

⑦平成 25 年度入学前教育プログラムについて

平成 25 年度の入学前教育は、入学前教育検討委員会において 5 年間の実施結果を検証し、プログラムを充実させて 7 月に提案をする。

以 上

資料その1

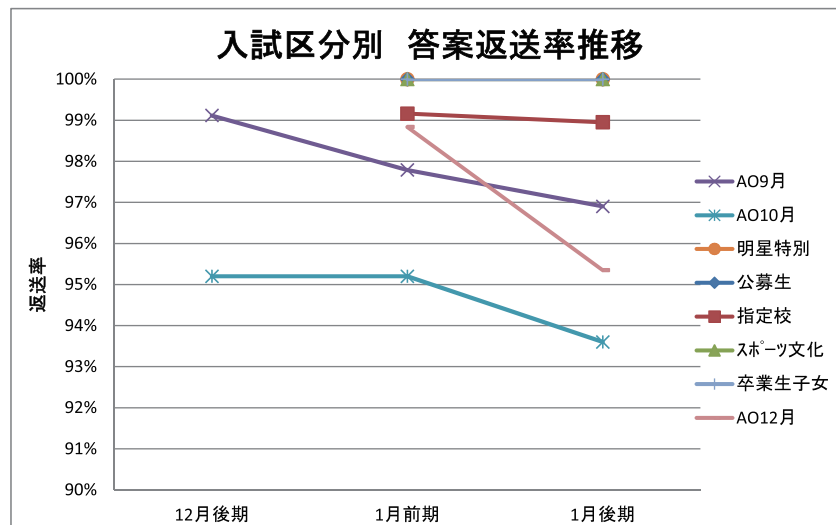
平成24年度 入学前教育 答案返送率推移

	人数	12月後期	1月前期	1月後期	全体返送率
AO9月	226	99.1%	97.8%	96.9%	97.9%
AO10月	125	95.2%	95.2%	93.6%	94.7%
明星特別	23		100.0%	100.0%	100.0%
公募生	67		100.0%	100.0%	100.0%
指定校	477		99.2%	99.0%	99.1%
スポーツ文化	31		100.0%	100.0%	100.0%
卒業生子女	4		100.0%	100.0%	100.0%
AO12月	86		98.8%	95.3%	97.1%
合計	1039				98.0%

※辞退者を除く

(参考) 平成23年度 入学前教育 答案返送率(※同時期DATAのみ抜粋)

	人数	12月後期	1月前期	1月後期	全体返送率
AO9月	182	97.8%	97.8%	95.6%	97.1%
AO10月	132	91.7%	89.4%	88.6%	89.9%
明星特別	23		100.0%	100.0%	100.0%
公募生	78		98.7%	98.7%	98.7%
指定校	514		98.6%	97.9%	98.2%
その他	8		100.0%	100.0%	100.0%
AO12月	90		94.4%	91.1%	92.8%
合計	1027				96.2%

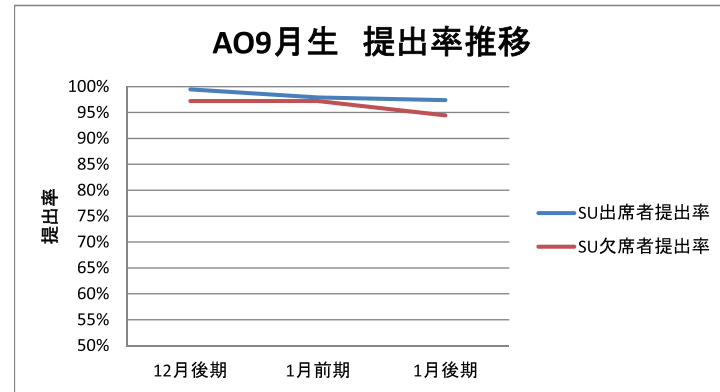


資料その2

平成24年度 入学前教育 スタートアップ講習(SU)出欠と課題提出率の相関

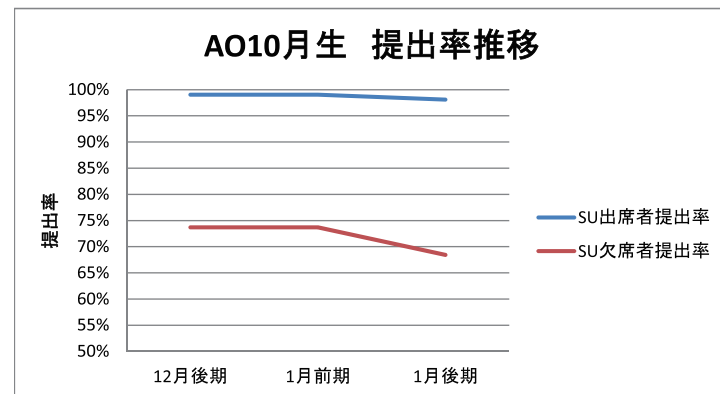
AO9月生

AO9月生	12月後期	1月前期	1月後期	全体	
SU出席者提出率	99.5%	97.9%	97.4%	98.2%	191名
SU欠席者提出率	97.2%	97.2%	94.4%	96.3%	35名



AO10月生

AO10月生	12月後期	1月前期	1月後期	全体	
SU出席者提出率	99.1%	99.1%	98.1%	98.7%	106名
SU欠席者提出率	73.7%	73.7%	68.4%	71.9%	19名



資料その3

平成24年度 入学前教育 科目別平均得点 英語

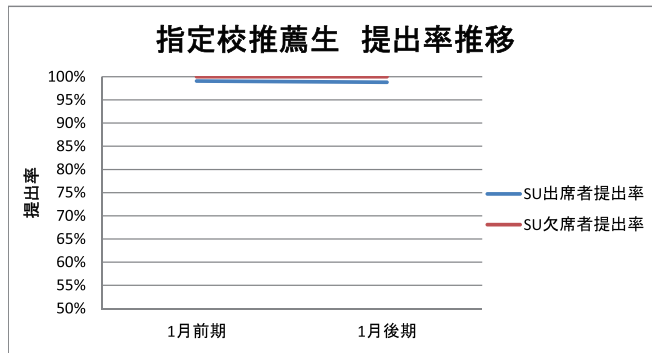
	12月後期	1月前期	1月後期
Ｂコース（基礎）	不定詞・動名詞・分詞	代名詞・助動詞	主語と動詞・単数と複数
平均点	53.5	60.6	61.0
SU出席者平均	56.0	62.0	61.6
SU欠席者平均	41.8	51.7	57.2
Ｓコース（標準）	不定詞・分詞・分詞構文	動名詞・助動詞	文型・自動詞と他動詞
平均点	64.8	63.2	63.7
SU出席者平均	65.1	62.6	63.3
SU欠席者平均	63.4	66.7	66.1
Ｈコース（上級）	不定詞・動名詞	分詞・助動詞	英文の構造・動詞
平均点	81.0	78.5	76.6
SU出席者平均	82.3	80.2	77.9
SU欠席者平均	67.5	65.3	66.6

指定校推薦生

指定校推薦生	1月前期	1月後期	全体
SU出席者提出率	99.1%	98.8%	98.9%
SU欠席者提出率	100.0%	100.0%	100.0%

422名

55名

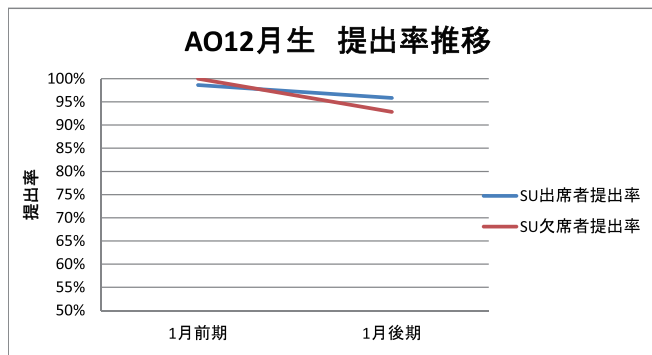


AO12月生

AO12月生	1月前期	1月後期	全体
SU出席者提出率	98.6%	95.8%	97.2%
SU欠席者提出率	100.0%	92.9%	96.4%

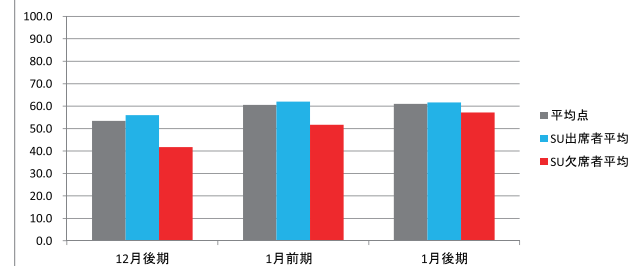
72名

14名

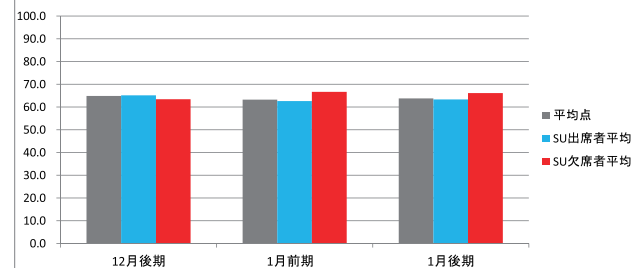


※公募制推薦生／スポーツ・文化推薦生／明星特別推薦生／卒業生子女推薦生は提出率100%（グラフ・表省略）

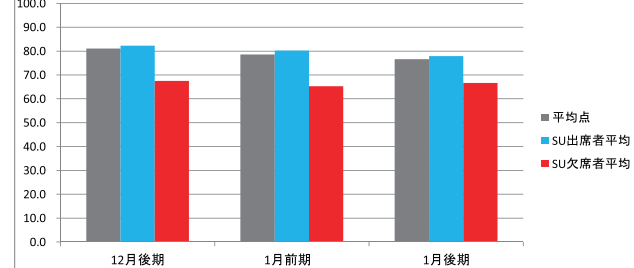
英語B（基礎）



英語S（標準）

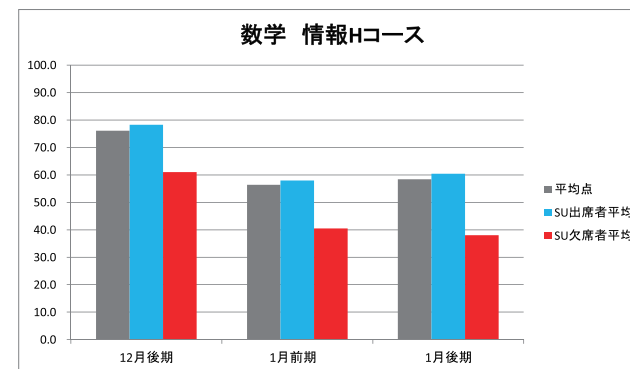
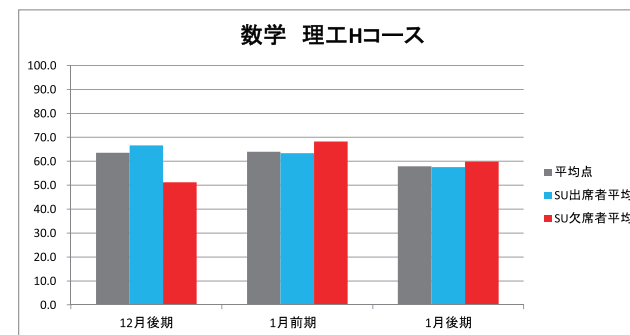
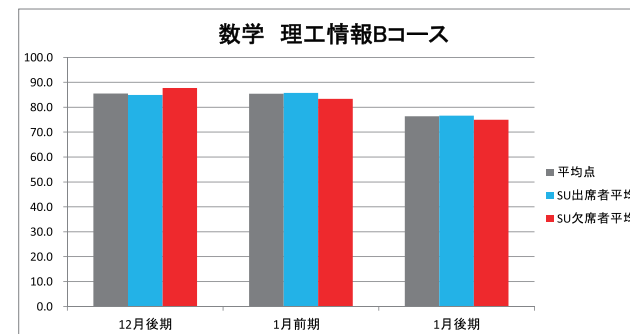
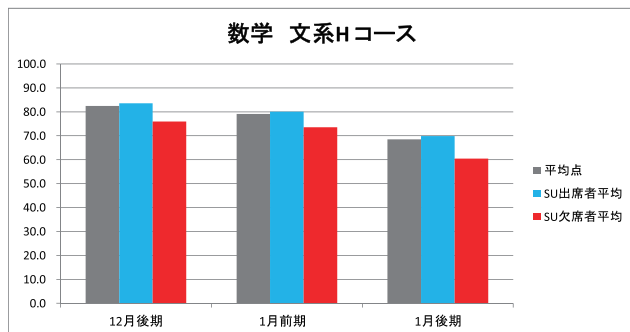
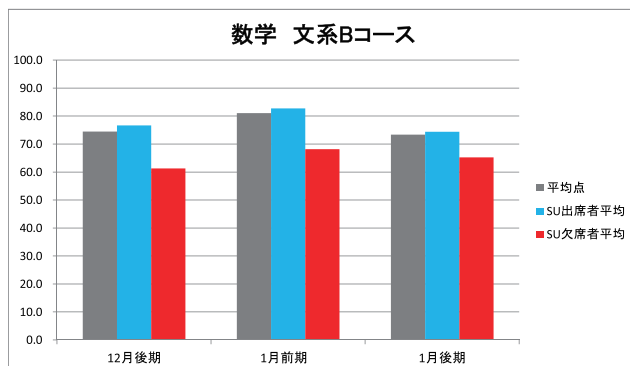


英語H（上級）



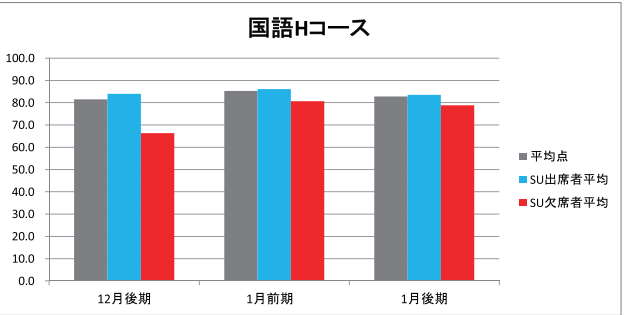
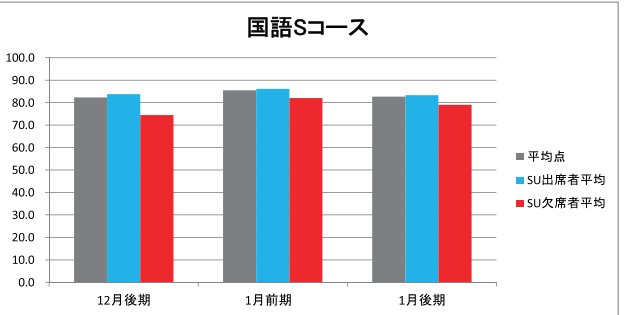
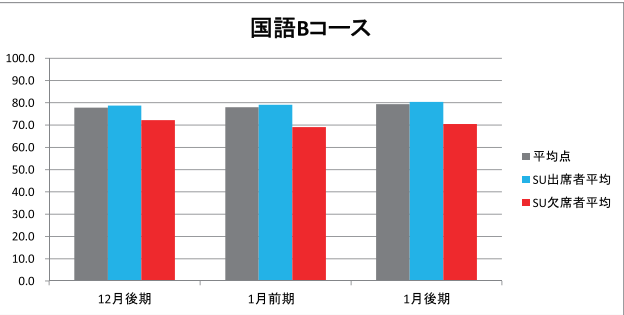
平成24年度 入学前教育 科目別平均得点 数学

	12月後期	1月前期	1月後期
文系Bコース(基礎)	単位の換算・概算・集合	比と割合	文字式・比例と反比例
平均点	74.5	81.0	73.4
SU出席者平均	76.7	82.7	74.4
SU欠席者平均	61.3	68.2	65.2
文系Hコース(上級)	平方根・文字式	1次方程式・1次関数	2次方程式・数列
平均点	82.5	79.1	68.5
SU出席者平均	83.5	80.0	69.8
SU欠席者平均	75.9	73.6	60.5
理工情報Bコース(基礎)	比と割合	平方根・文字式	方程式・関数
平均点	85.5	85.4	76.4
SU出席者平均	84.9	85.7	76.6
SU欠席者平均	87.7	83.4	75.0
理工Hコース(上級)	指数関数・対数関数	三角関数・数列	ベクトル・行列
平均点	63.6	64.0	57.9
SU出席者平均	66.6	63.3	57.6
SU欠席者平均	51.3	68.2	59.9
情報Hコース(上級)	方程式・平方根	指数関数・対数関数	三角関数・数列
平均点	76.1	56.4	58.4
SU出席者平均	78.3	58.0	60.5
SU欠席者平均	61.0	40.5	38.0



平成24年度 入学前教育 科目別平均得点 国語

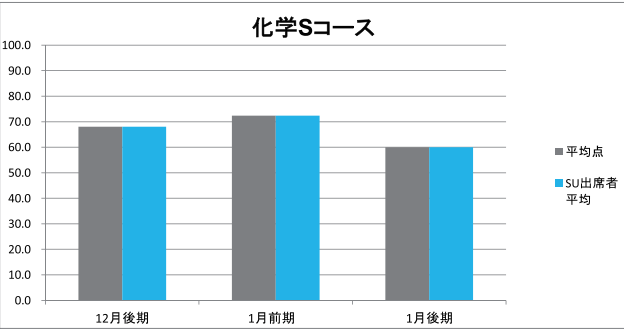
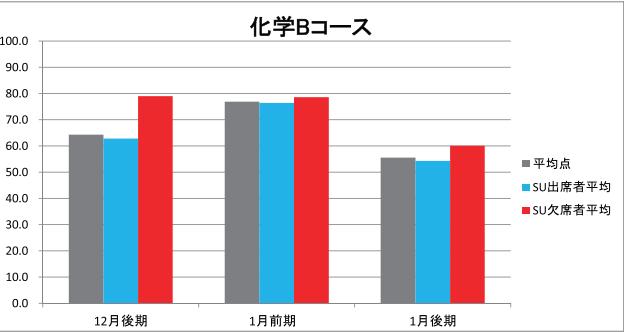
	12月後期	1月前期	1月後期
Bコース(基礎)	読解入門	読解練習(1)	読解練習(2)
平均点	77.9	78.0	79.4
SU出席者平均	78.7	79.1	80.4
SU欠席者平均	72.2	69.1	70.5
Sコース(標準)	読解練習	モラルと環境	企業・格差
平均点	82.3	85.5	82.7
SU出席者平均	83.7	86.1	83.3
SU欠席者平均	74.5	82.1	79.0
Hコース(上級)	いのち・文化	モラルと社会	情報化と格差
平均点	81.5	85.3	82.8
SU出席者平均	83.9	86.1	83.5
SU欠席者平均	66.3	80.7	78.8



平成24年度 入学前教育 科目別平均得点 化学

	12月後期	1月前期	1月後期
Bコース(基礎)	物質の種類・原子と分子とイオン・物質	化学反応と質量・化学反応式	水溶液の性質・酸と塩基・pH・中和反応
平均点	64.3	76.9	55.5
SU出席者平均	62.8	76.4	54.3
SU欠席者平均	79.0	78.6	60.1
Sコース(標準)	化学結合・反応熱と熱化学方程式	溶液の濃度と性質・溶解度・気体	物質質量・化学反応式と量的関係
平均点	68.0	72.3	60.0
SU出席者平均	68.0	72.3	60.0
SU欠席者平均	なし	なし	なし

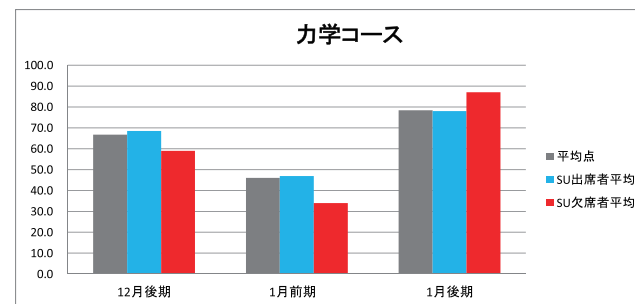
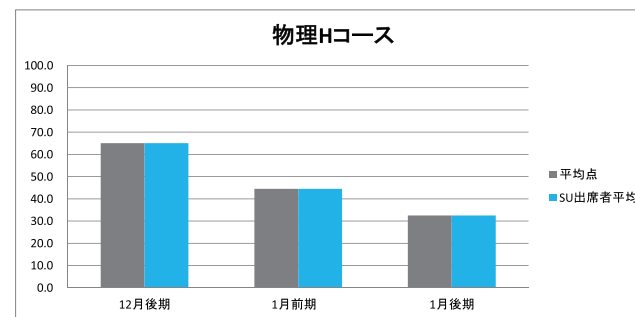
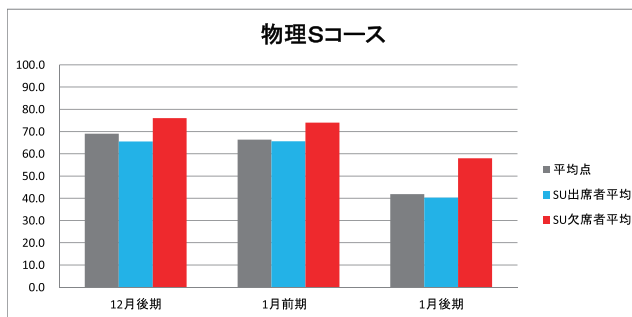
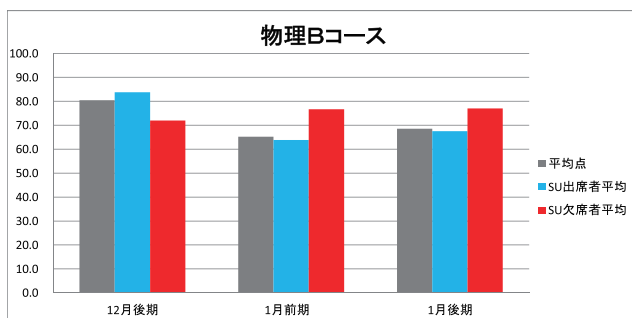
※Hコースは該当者なし



※化学Hコースは該当者なし

平成24年度 入学前教育 科目別平均得点 物理

	12月後期	1月前期	1月後期
Ｂコース(基礎)	波	速度・加速度	力・運動方程式
平均点	80.4	65.2	68.6
SU出席者平均	83.8	63.8	67.6
SU欠席者平均	72.0	76.7	77.0
Ｓコース(標準)	波動	等加速度運動	運動方程式・2次元運動
平均点	69.0	66.4	41.9
SU出席者平均	65.5	65.6	40.3
SU欠席者平均	76.0	74.0	58.0
Ｈコース(上級)※	波動	加速度・運動方程式	2次元運動・エネルギー
平均点	65.0	44.5	32.5
SU出席者平均	65.0	44.5	32.5
SU欠席者平均	なし	なし	なし
力学コース	速度・加速度	運動方程式・落下	仕事とエネルギー
平均点	66.8	46.0	78.4
SU出席者平均	68.5	46.9	78.0
SU欠席者平均	59.0	34.0	87.0



資料4

通信添削 科目別講評(業務委託契約(株)四谷ゼミナール通信添削報告書より 抜粋)

(1) 英語

英語では昨年度同様、学生間の学力格差が見られる。一例を挙げると、12 月後期の通信添削においては、B(基礎)コース・S(標準)コース・H(上級)コースそれぞれで「準動詞」の問題を出題した。コース(レベル)が上がるのに対応して問題の難易度も高くしてあるが、平均点は B が 53.5、S が 64.8、H は 81.0 となった。H コースと B コースにおいては平均点で 30 点近く開きが出ていることから学力格差は明確に見られる。H コースで満点に近い点数を取った学生はその単元について高校レベルの英語の申し分ない知識があるといえる一方で、B コースで低い点を取る学生は、中学初歩の知識でさえ不十分であるといえる。B コースでよく見られた誤答には、①maked、taked、writed といった誤りに象徴される基本的知識不足によるものと、②整序英作文において、およそ英文の体をなしていない解答等があった。

単元別に見ると、B コースは「準動詞(不定詞・動名詞・分詞)」の単元で点数の低さが目立った。特に SU 講座の欠席者の平均点は 41.8(別紙: 資料その3参照)と低く、「テキストをしっかりと読んで解く」「辞書を使ってよい」等の指示を認識せず、いきなり確認テストを解こうとした可能性が高い。出題形式で見ると整序英作文で基礎的な問題でも正答を出すことができていない学生が多かった。

一方今年度は、乱雑な筆記体で読めない答案や、白紙答案は昨年度よりも少なく感じた。また例年通り「基礎を忘れていたことに気づきました。」「入学までにしっかりと復習しておきます」さらには「このレベルの勉強をするのにオススメの問題集はありますか?」という前向きなコメントも多くあり、英語に対して苦手意識を持つ学生の中に、基礎から学べる機会を求めている学生もいることがうかがわれた。今後も早期に合格が決定した入学予定者に対して「気づき」を与えて勉強へと誘う機会の必要性は益々高まるものと考ええる。

(2) 数学

入試区分別の平均点はおよそ 60～80 点の間であり(別紙: 資料4参照)、全体としては概ね内容を理解していると思われる。文系と理系では、文系の方が平均点は高かったが、これは、理工 H コース、情報 H コースの平均点が低かったためである。その原因としては、ベクトルや行列、指数関数・対数関数、数列などの単元が未習あるいは苦手とする学生が多かったためだと考えられる。また、文系では、数列を未習である学生が相当数いたと考えられるが、正解でない場合も自分なりに考えた答え(どのように考えて間違えたかがわかる誤答)が書かれている場合が多く、真面目に取り組んでいる様子がうかがえた。

今年度は2月前期・2月後期の通信添削が実施されなかったため、文系では場合の数・確率など、理系では指数・対数、微分・積分などが学習内容から削除された。入学後の学習内容を考慮すると、特に理系の微分・積分に関しては、何らかの形でサポートをする必要があると思われる。

ごく少数ではあるが、「この範囲は習っていません。」というコメントとともに白紙で提出する学生

が見受けられた。そのような態度を見過ごすことは、入学後の学習態度にも悪影響を与えかねない。即ち、「習っていないからできない」→「自分で努力することを放棄する」といったことが考えられる。

早い段階で、そのような学習態度を改めるよう促す意味で、通信添削の実施前に、「習っていないから、できない」ではなく、「高校で習ったことはもちろん、習っていないこともテキストを読んで学習し、大学入学後に備える」という入学前教育の趣旨を十分に理解させるべきだと思われる。また、基準を設けて、その基準を下回った場合は、答案を再提出させたり、補習教材を別に与えて提出させるなども有効な方法であると考えられる。

(3) 国語

今年度は昨年度と同様、作文問題を毎回全コース・全問題で出題し、全て配点を 20 点とした。残りの 80 点は読解問題・知識問題である。全体平均点では昨年度と比べてそれほど大きな差は出ていない。しかし特に SU 講座不参加の学生は、多くのコースで得点が昨年よりも下がっていた。以下は国語で大きく点が下がったコースである。(別紙: 資料その3より抜粋)

12 月後期 S コース: 昨年度 SU 講座不参加者の平均点 79.0→今年度不参加者 74.5 (−4.5)

12 月後期 H コース: 昨年度 SU 講座不参加者の平均点 80.8→今年度不参加者 66.3 (−14.5)

1 月前期 B コース: 昨年度 SU 講座不参加者の平均点 73.2→今年度不参加者 69.1 (−4.1)

1 月前期 H コース: 昨年度 SU 講座不参加者の平均点 85.0→今年度不参加者 80.7 (−4.3)

1 月後期 B コース: 昨年度 SU 講座不参加者の平均点 75.3→今年度不参加者 70.5 (−4.8)

※() 内は昨年度比マイナス分

SU 講座に不参加の学生の得点が、今年度大きく下がった理由は不明である。一般に、国語は読解問題以外に漢字・語彙・知識を問う問題も多く、真面目に辞書を引いて調べるか否かで大きく点差が出る。また、作文も取り組みの姿勢が点数に大きく影響するため、通信添削の目的が十二分に伝わっていないとこのような結果が出ると考えられる。

全体で見ても読解問題・知識問題に関しては昨年度と大きな変動は見られなかった。漢字では書き取りに問題が多く見られた。正しく書けない、雰囲気では漢字を理解していないような誤答が多かった。昨年に続き、存在しない漢字を書く間違いが多く見られたのが印象的であった。

具体的には、

・「既」の右半分が「牙」「兄」「才」になっている

・「就」の右半分が「犬」になっている

・「貢」の上の部分が「イ」になっている

・「抑える」の右半分が「卯」になっている

という間違いである。年々、幼いうちから携帯電話を持つようになり、漢字を全体のイメージからのみでとらえているために細かい部首やつくりを理解していないことが原因と考えられる。

◆作文について

参加者全員が、作文を毎回 2 題書く機会を持った。中には非常に完成度の高い文章を書く学生もあり、「自分の意見を書くのは 200 字では短すぎる」という声すらあった。一方で、顕著であった

問題点は以下の5点であった。

①乱筆・悪筆

②「口語表現」の使用 以下は今年度よく見られた例

・「やっぱおかしいのかなと思う。」

・「・・・はしょうがない。」

・「・・・はすごやだ。」

・「生まれてしまうではないか」

・「調子こいてる」

・「携帯をいじってばっかいて」

・「持っていかなきゃ／いかなくちやいけないはめんどくさい。」

・「こうゆうのを」

③『です・ます』は用いない」「101 字以上書く」等の指示の無視

④主語と述語が対応していない文、および一人称主語に不適切な述語

・「私が感じたことは、・・・と気づきました。」

・「私が学んだことは、・・・を学んだ。」

・「私は・・・の大切さを感じたと思う。」

⑤不適切な文末

・「・・・べき。」「・・・ため。」「・・・から。」「・・・なので」および「・・・こと。」等、体言止めの多用

何より、これらの表現をふざけて用いているのではなく、公式の文章に書いても問題はないという認識で用いているという印象を受けることに大きな問題を感じる。

最近の学生は、お手本になる文章が、書籍や新聞ではなく、携帯メールやブログであることが多いため、今後もこうした文章を問題のない表現だと考えて書く学生が増えてくることが十分に予想される。こうした口語表現は公的な文章では許されないという認識を、入学前、入学後の早い段階で持たせていく努力が必要である。

(4)化学

白紙答案もほとんど無く、全体的にしっかり取り組まれていた。平均点はほぼ 60～80 点に収まった。(別紙：資料その4参照)ただし、1月後期が他の回と比べて平均点が低く、特に AO12 月生については 37.2 点と他の入試区分の学生に比べて著しく低かった。1月後期では、学習内容が酸と塩基、pH、中和、塩などでやや難易度が高く、内容量も盛りだくさんだったことも影響したと考えられる。AO12 月生に関しては、1 月前期では他の入試区分の学生とほぼ同じ平均点であったため、単に上記の分野を苦手とする学生が多かっただけの可能性もある。しかし、理解できていないことは事実なので、この分野に関しての学習支援は必要である。

また、実施回数が減ったため、学習内容から、酸化・還元、熱化学方程式、有機化学などが削除された。特に、有機化学については、高等学校で全く学習しなかったり、学習した場合でも一部だけである学生も多い。本来は入学前教育の内容に含まれることが望ましかったが、それができなかったため、何らかの形で大学入学前または入学後にフォローしておくことが必要であると考えられる。

(5)物理

入試区分別平均点は、60～75 点が主であった。(別紙：資料その4参照)ただし、Hコースについては元々問題の難易度が他コースと比べてかなり高く設定してあるため、平均点が低いのはやむを得ないと思われる。昨年度と比べると平均点がやや高かったが、化学と比べると今年度も低かった。特に、入試区分別でみて公募制推薦生 S コースの平均点が1月前期・後期 2 回とも 30 点台で低かった。また指定校推薦生も1月後期は 30 点台となった。1月後期では、学習内容は「力と運動方程式」であった。これらの学生に対しては補講などを行う必要があると思われる。

白紙に近い答案も数名見られたが、学習に取り組む態度は概ね良好であった。また、今回電流・磁界などについては、学習内容から削除されたが、本来は入学後必要になる可能性が高いので、何らかの形で学習内容に盛り込むことが望ましい。

(6)力学

物理と同様に、昨年度より平均点が上昇し、60～65 点台が多かった。特に 1 月後期では、平均点がすべての入試区分で 76.5 点を上回った。(別紙：資料その4参照)回数別では1月前期が低く、特に AO9月 は 41.5 点、指定校推薦は 47.1 点で 50 点を下回った。これは、1 月前期の学習内容が「運動方程式と落下」であり、学生にとっては苦手な分野であったためだと思われる。

一部空欄が多い答案を提出する学生も見られたが、全体的には学習態度はよかった。今回削除された運動量・熱・力のつり合い・モーメントのうち、特に力のつり合い・モーメントなどは入学後の学習に深く関わってくるため、何らかの形で学習内容に盛り込むことが必要である。